

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 6 年 9 月 20 日(2024.9.20)

【公開番号】特開 2023-94953(P2023-94953A)
【公開日】令和 5 年 7 月 6 日(2023.7.6)
【年通号数】公開公報(特許)2023-126
【出願番号】特願 2021-210575(P2021-210575)
【国際特許分類】

A 6 1 F 13/56(2006.01)

10

A 6 1 F 13/505(2006.01)

A 6 1 F 13/47(2006.01)

A 6 1 F 13/62(2006.01)

【F I】

A 6 1 F 13/56 2 0 0

A 6 1 F 13/505 1 0 0

A 6 1 F 13/47 1 0 0

A 6 1 F 13/62

【手続補正書】

20

【提出日】令和 6 年 9 月 10 日(2024.9.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

着用状態において着用者の肌に近い側に位置する表面シートと、着用者の肌から遠い側に位置する裏面シートと、両シート間に位置する吸収体とを備え、

30

着用者の股下を通る前後方向に対応する縦方向及び該縦方向に直交する横方向を有し、

着用者の腰周りに環状に装着されるホルダに着脱可能に固定されて使用可能な吸収性パッドであって、

前記表面シート、前記裏面シート及び前記吸収体を含む吸収性本体と、該吸収性本体の前記縦方向の端部域の肌対向面に配置された防漏カフとを備え、

前記防漏カフは、防漏シートと、該防漏シートに固定され前記横方向に伸縮可能な弾性部材とを備え、

前記防漏シートは、他の部材に固定された固定部と、該防漏シートの前記縦方向の内方端側に位置し且つ他の部材に固定されていない非固定部とを有し、前記弾性部材は、該非固定部と平面視で重なる領域に配置されており、

40

前記吸収性パッドの着用状態では、前記弾性部材の収縮により、前記防漏シートの非固定部が着用者の肌側に向かって起立し、起立した該非固定部とこれに対向する他の部材とで画成された内部空間と、前記縦方向の内方に向かって開口する開口部とを有するポケット部が形成され、

前記防漏カフが配置された前記縦方向の端部域に、前記ホルダとの着脱が可能なパッド側止着構造を有し、

前記パッド側止着構造は、前記横方向に延在するとともに、前記縦方向に間欠に複数配置されており、

前記縦方向に間欠配置された複数の前記パッド側止着構造のうち、該縦方向の最内方に位置するものは、前記弾性部材よりも該縦方向の外方に配置されている、吸収性パッド。

50

【請求項 2】

前記吸収性パッドの平面視において、前記縦方向に間欠配置された複数の前記パッド側止着構造のうち、該縦方向の外方側に位置するものは前記吸収体と重ならず、該縦方向の内方側に位置するものの少なくとも一部は該吸収体と重なる、請求項 1 に記載の吸収性パッド。

【請求項 3】

前記縦方向に隣り合う前記パッド側止着構造どうしの間の領域が非弾性である、請求項 1 又は 2 に記載の吸収性パッド。

【請求項 4】

前記縦方向に間欠配置された複数の前記パッド側止着構造の前記横方向の全長が互いに同一である、請求項 1 ～ 3 の何れか 1 項に記載の吸収性パッド。 10

【請求項 5】

前記縦方向に間欠配置された複数の前記パッド側止着構造のうち、該縦方向の外方側に位置するものの前記横方向の全長が、該縦方向の内方側に位置するものの該横方向の全長よりも長い、請求項 1 ～ 3 の何れか 1 項に記載の吸収性パッド。

【請求項 6】

前記縦方向に間欠配置された複数の前記パッド側止着構造が、該吸収性パッドの前記横方向の全長にわたって延在している、請求項 1 ～ 3 の何れか 1 項に記載の吸収性パッド。

【請求項 7】

前記吸収性パッドの平面視において、前記縦方向に間欠配置された複数の前記パッド側止着構造が湾曲している、請求項 1 ～ 3 の何れか 1 項に記載の吸収性パッド。 20

【請求項 8】

前記縦方向に隣り合う複数の前記パッド側止着構造どうしの間隔が、各該パッド側止着構造の前記縦方向の長さと同じである、請求項 1 ～ 3 の何れか 1 項に記載の吸収性パッド。

【請求項 9】

前記縦方向に隣り合う複数の前記パッド側止着構造どうしの間隔が、各該パッド側止着構造の前記縦方向の長さに比べて短い、請求項 1 ～ 3 の何れか 1 項に記載の吸収性パッド。

【請求項 10】

前記縦方向に隣り合う複数の前記パッド側止着構造どうしの間隔が、各該パッド側止着構造の前記縦方向の長さに比べて長い、請求項 1 ～ 3 の何れか 1 項に記載の吸収性パッド。 30

【請求項 11】

前記パッド側止着構造に止着障害部が設けられている、請求項 1 ～ 3 の何れか 1 項に記載の吸収性パッド。

【請求項 12】

前記吸収体の前記縦方向に沿う側縁よりも前記横方向の外方の位置に、該縦方向に沿って延びる伸縮性のレッグカフを備え、

腹側又は背側の少なくとも一方において、前記レッグカフの伸縮開始位置が、前記パッド側止着構造における前記縦方向の内方端縁と該縦方向において一致しているか、又は該内方端縁を越えて該縦方向の外方に位置している、請求項 1 ～ 11 の何れか 1 項に記載の吸収性パッド。 40

【請求項 13】

前記レッグカフよりも前記横方向の内方の位置に、前記縦方向に沿って延びる伸縮性の防漏カフを備え、

腹側又は背側の少なくとも一方において、前記防漏カフの伸縮開始位置が、前記パッド側止着構造における前記縦方向の内方端縁と該縦方向において一致しているか、又は該内方端縁を越えて該縦方向の外方に位置している、請求項 12 に記載の吸収性パッド。

【請求項 14】

前記吸収体の前記縦方向に沿う側縁よりも前記横方向の外方の位置に、該縦方向に沿って延びる伸縮性のレッグカフを備え、

前記レッグカフよりも前記横方向の内方の位置に、前記縦方向に沿って延びる伸縮性の 50

防漏カフを備え、

腹側又は背側の少なくとも一方において、前記防漏カフの伸縮開始位置が、前記パッド側止着構造における前記縦方向の内方端縁と該縦方向において一致しているか、又は該内方端縁を越えて該縦方向の外方に位置している、請求項 1 ~ 1 1 の何れか 1 項に記載の吸収性パッド。

【請求項 1 5】

前記吸収性パッドの最大伸長状態において、前記縦方向に間欠配置された複数の前記パッド側止着構造のうち、該縦方向の最内方に位置するものは、平面視で前記非固定部と重ならない、請求項 1 ~ 1 4 の何れか 1 項に記載の吸収性パッド。

【請求項 1 6】

前記縦方向に間欠配置された複数の前記パッド側止着構造のうち、該縦方向の最内方に位置するものの前記横方向の長さは、前記非固定部の該横方向の長さ比べて長い、請求項 1 ~ 1 5 の何れか 1 項に記載の吸収性パッド。

【請求項 1 7】

請求項 1 ~ 1 6 の何れか 1 項に記載の吸収性パッドと、
前記吸収性パッドが装着可能なホルダと、
を備える吸収性物品。

【請求項 1 8】

前記ホルダは、不織布を主体として構成されている、請求項 1 7 に記載の吸収性物品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

本実施形態では、図 3 に示すように、吸収性パッド 1 における着用者の脚周りに対応するレッグ縁部にレッグカフ 6 5 が設けられている。前記レッグ縁部は、典型的には、股下部 M における吸収性パッド 1 の縦方向 X に沿う両側縁部を含む。レッグカフ 6 5 は、第 1 防漏カフ 6 を構成する第 1 防漏シート 6 0 とレッグカフ形成用弾性部材 6 6 とを含んで構成されている。より具体的には、第 1 防漏シート 6 0 の縦方向 X に沿う両側縁部のうち、一方（内側縁部）は前述した起立部 6 2 とされ、他方（外側縁部）は、吸収体 5 の横方向 Y の外方に他の部材（本実施形態では裏面シート 4）に固定されているところ、その第 1 防漏シート 6 0 の他の部材との固定部に、縦方向 X に延びるレッグカフ形成用弾性部材 6 6 が同方向に伸縮可能に固定されてレッグカフ 6 5 が形成されている。レッグカフ形成用弾性部材 6 6 は、少なくとも股下部 M における吸収性パッド 1 の縦方向 X に沿う側縁部に配置されている。吸収性パッド 1 の着用状態又は自然状態では、レッグカフ形成用弾性部材 6 6 の収縮により、前記レッグ縁部に縦方向 X に実質的に連続したレッグギャザーが形成される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 4】

第 2 防漏シート 7 0 は、図 4 に示すように、他の部材に固定された固定部 7 2（図 4 中、斜線を付した領域）と、他の部材に固定されていない非固定部 7 5 とを有する。第 2 防漏シート 7 0 が固定される前記「他の部材」は、第 2 防漏シート 7 0 に対向配置される部材であり、例えば、表面シート 3、第 1 防漏シート 6 0 等である。第 2 防漏シート 7 0 と他の部材とは固定手段 7 9（図 3（a）参照）によって接合されている。固定手段 7 9 の配置領域は、固定部 7 2（図 4 中、斜線を付した領域）と同じである。固定手段 7 9 は特

10

20

30

40

50

に制限されず、接着剤、融着等の公知の固定手段を用いることができる。

固定部 7 2 は、第 2 防漏シート 7 0 と他の部材との固定部が第 2 防漏シート 7 0 の横方向 Y の全長にわたって連続的に延在する連続固定部 7 3 と、連続固定部 7 3 よりも縦方向 X の内方に位置して連続固定部 7 3 に隣接し、第 2 防漏シート 7 0 と他の部材との固定部が横方向 Y に間欠的に存在する不連続固定部 7 4 とを含み、横方向 Y に隣り合う一対の不連続固定部 7 4 , 7 4 の間に非固定部 7 5 が位置している。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 1】

本実施形態では、パッド側止着構造 8 は、図 2 及び図 4 に示すように、縦方向 X の最外方に位置する縦方向最外方止着構造 8 A と、該止着構造 8 A よりも縦方向 X の内方側に位置する内側止着構造 8 B とを含む。両止着構造 8 A , 8 B は、何れも平面視長方形形状をなし、その長手方向を横方向 Y に一致させて、吸収性パッド 1 の横方向 Y の両端部を除く横方向 Y の略全長にわたって連続している。

本実施形態では、縦方向 X に間欠配置された複数のパッド側止着構造 8 A , 8 B の横方向 Y の全長が互いに同一であり、より具体的には、両止着構造 8 A , 8 B は、平面視において互いに同形状・同寸法である。なお、ここで言う「同一」には、対比する全長どうしが完全に同一の場合と、若干異なるものの実質的に同一の場合とが包含される。後者の場合は、例えば、複数のパッド側止着構造の横方向の全長の平均値との差の絶対値が、該平均値に対して 1 0 % 以内であることが好ましい。

縦方向最外方止着構造 8 A の縦方向 X の両端のうちの縦方向 X の外方側の端は、吸収性パッド 1 (吸収性本体 2) の縦方向外方端 1 X から縦方向 X に間隔 L 1 を置いた位置に配置されている。内側止着構造 8 B は、縦方向最外方止着構造 8 A から縦方向 X に間隔 L 2 を置いた位置で且つ第 2 防漏シート 7 0 の非固定部 7 5 に配置された第 2 弾性部材 7 1 よりも縦方向 X の外方に配置されている。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

本実施形態では、図 2 及び図 4 に示すように、吸収性パッド 1 の平面視において、縦方向 X に間欠配置された複数のパッド側止着構造 8 のうち、縦方向 X の外方側に位置する縦方向最外方止着構造 8 A は吸収体 5 と重ならず、縦方向 X の内方側に位置する内側止着構造 8 B の少なくとも一部は吸収体 5 と重なる。一般に、吸収体 5 は吸収性パッド 1 の他の部材と比べて剛性が高く、吸収性パッド 1 における吸収体 5 と平面視で重なる領域は、吸収体 5 と平面視で重ならない領域に比べて剛性が高く柔軟性が低い高剛性領域であるところ、該高剛性領域のみにパッド側止着構造 8 が配置されていると、おむつ 1 0 の着用中にパッド側止着構造 8 を介して固定されたホルダ 1 1 が剥がれることが懸念される。これに対し本実施形態では、前記のように構成されており、吸収体 5 と平面視で重ならない縦方向最外方止着構造 8 A を介して吸収性パッド 1 をホルダ 1 1 に固定できるため、吸収性パッド 1 がホルダ 1 1 から剥がれる不都合が一層効果的に防止される。本発明には、吸収性パッド 1 の縦方向 X の一方の端部域に 3 個以上のパッド側止着構造 8 が縦方向 X に間欠配置された形態 (図 9 ~ 1 1 参照) が包含されるところ、斯かる形態では、縦方向最外方止着構造 8 A のみが吸収体 5 と重ならず、それ以外の、内側止着構造 8 B を含む複数のパッド側止着構造 8 はそれぞれ吸収体 5 と重なることが好ましい。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

本実施形態では、前述したとおり図2及び図3に示すように、伸縮性のレッグカフ65が、吸収体5の縦方向Xに沿う側縁よりも横方向Yの外方の位置に、縦方向Xに沿って延びているところ、腹側（腹側部F）又は背側（背側部R）の少なくとも一方において、レッグカフ65の伸縮開始位置が、パッド側止着構造8における縦方向Xの内方端縁と縦方向Xにおいて一致しているか、又は該内方端縁を越えて縦方向Xの外方に位置していることが好ましい。斯かる構成により、前述した本発明の特徴的な構成を相俟って、本発明の所定の効果が一層確実に奏されるようになる。

10

前記の「レッグカフ65の伸縮開始位置」とは、レッグカフ65を構成するレッグカフ形成用弾性部材66が縦方向Xに伸縮可能に配された伸縮領域（起立部62の配置領域）の縦方向Xの一端を指す。前記伸縮領域は、典型的には、少なくとも股下部Mの縦方向Xの全長にわたって同方向に延在し、更には腹側部F及び背側部Rそれぞれに延出している。また、前記の「パッド側止着構造8における縦方向Xの内方端縁」とは、吸収性パッド1の縦方向Xの端部域において縦方向Xに間欠配置された複数のパッド側止着構造8のうち、縦方向Xの最内方に位置するもの（本実施形態ではパッド側止着構造8B）の縦方向Xの内方端縁を指す。ここでいう「内方端縁」とは、パッド側止着構造8の横方向Yに延在する一対の縦方向Xの端縁のうち、縦方向Xの内方（吸収性パッド1の縦中心線に近い側）に位置するものを指す。前記縦中心線（図示せず）は、吸収性パッド1を縦方向Xに二等分して横方向Yに延びる仮想直線である。パッド側止着構造8が有する一対の縦方向Xの端縁は、前記内方端縁と、該内方端縁とは反対側に位置する外方端縁とを含む。

20

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

30

図9に示す吸収性パッド1D、図10に示す吸収性パッド1E、図11に示す吸収性パッド1Fは、何れも吸収性パッドの縦方向Xの一方の端部域に3個のパッド側止着構造8（8A，8B，8C）が縦方向Xに間欠配置されている点で共通する。止着構造8Aは縦方向最外方止着構造、止着構造8B，8Cは内側止着構造であり、各止着構造8の縦方向Xの長さ（幅）は互いに同じである。

吸収性パッド1Dでは、縦方向Xに隣り合う止着構造8どうしの間隔が、該止着構造8の縦方向Xの長さ（幅）に比べて短い。

吸収性パッド1Eでは、縦方向Xに隣り合う止着構造8どうしの間隔が、該止着構造8の縦方向Xの長さ（幅）に比べて短い。

吸収性パッド1Fは、縦方向Xに隣り合う止着構造8どうしの間隔が位置によって異なる点で、該間隔が位置に関わらず同じである吸収性パッド1D，1Eと異なる。図11に示す形態では、縦方向最外方止着構造8Aとこれに隣接する内側止着構造8Bとの間隔の方が、内側止着構造8Bとこれよりも縦方向Xの内方に位置する内側止着構造8Cとの間隔に比べて短い。

40

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0045

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0045】

50

< 4 >

前記吸収性パッドの平面視において、前記縦方向に間欠配置された複数の前記パッド側止着構造の前記横方向の全長が互いに同一である、前記< 1 > ~ < 3 >の何れか1に記載の吸収性パッド。

< 5 >

前記吸収性パッドの平面視において、前記縦方向に間欠配置された複数の前記パッド側止着構造のうち、該縦方向の外方側に位置するものの前記横方向の全長が、該縦方向の内方側に位置するものの該横方向の全長よりも長い、前記< 1 > ~ < 3 >の何れか1に記載の吸収性パッド。

< 6 >

前記吸収性パッドの平面視において、前記縦方向に間欠配置された複数の前記パッド側止着構造が、前記吸収性パッドの前記横方向の全長にわたって延在している、前記< 1 > ~ < 3 >の何れか1に記載の吸収性パッド。

< 7 >

前記吸収性パッドの平面視において、前記縦方向に間欠配置された複数の前記パッド側止着構造が湾曲している、前記< 1 > ~ < 3 >の何れか1に記載の吸収性パッド。

< 8 >

前記縦方向に隣り合う複数の前記パッド側止着構造どうしの間隔が、各該パッド側止着構造の前記縦方向の長さと同じである、前記< 1 > ~ < 3 >の何れか1に記載の吸収性パッド。

< 9 >

前記縦方向に隣り合う複数の前記パッド側止着構造どうしの間隔が、各該パッド側止着構造の前記縦方向の長さに比べて短い、前記< 1 > ~ < 3 >の何れか1に記載の吸収性パッド。

< 10 >

前記縦方向に隣り合う複数の前記パッド側止着構造どうしの間隔が、各該パッド側止着構造の前記縦方向の長さに比べて長い、前記< 1 > ~ < 3 >の何れか1に記載の吸収性パッド。

< 11 >

前記パッド側止着構造に止着障害部が設けられている、前記< 1 > ~ < 3 >の何れか1

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0046

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0046】

< 12 >

前記吸収体の前記縦方向に沿う側縁よりも前記横方向の外方の位置に、該縦方向に沿って延びる伸縮性のレッグカフを備え、

腹側又は背側の少なくとも一方において、前記レッグカフの伸縮開始位置が、前記パッド側止着構造における前記縦方向の内方端縁と該縦方向において一致しているか、又は該内方端縁を越えて該縦方向の外方に位置している、前記< 1 > ~ < 11 >の何れか1に記載の吸収性パッド。

< 13 >

前記吸収体の前記縦方向に沿う側縁よりも前記横方向の外方の位置に、該縦方向に沿って延びる伸縮性のレッグカフを備え、

前記レッグカフよりも前記横方向の内方の位置に、前記縦方向に沿って延びる伸縮性の防漏カフを備え、

腹側又は背側の少なくとも一方において、前記防漏カフの伸縮開始位置が、前記パッド

10

20

30

40

50

側止着構造における前記縦方向の内方端縁と該縦方向において一致しているか、又は該内方端縁を越えて該縦方向の外方に位置している、前記< 1 > ~ < 1 2 > の何れか 1 に記載の吸収性パッド。

< 1 4 >

前記< 1 > ~ < 1 3 > の何れか 1 に記載の吸収性パッドと、

前記吸収性パッドが装着可能なホルダと、

を備える吸収性物品。

【手続補正 1 0】

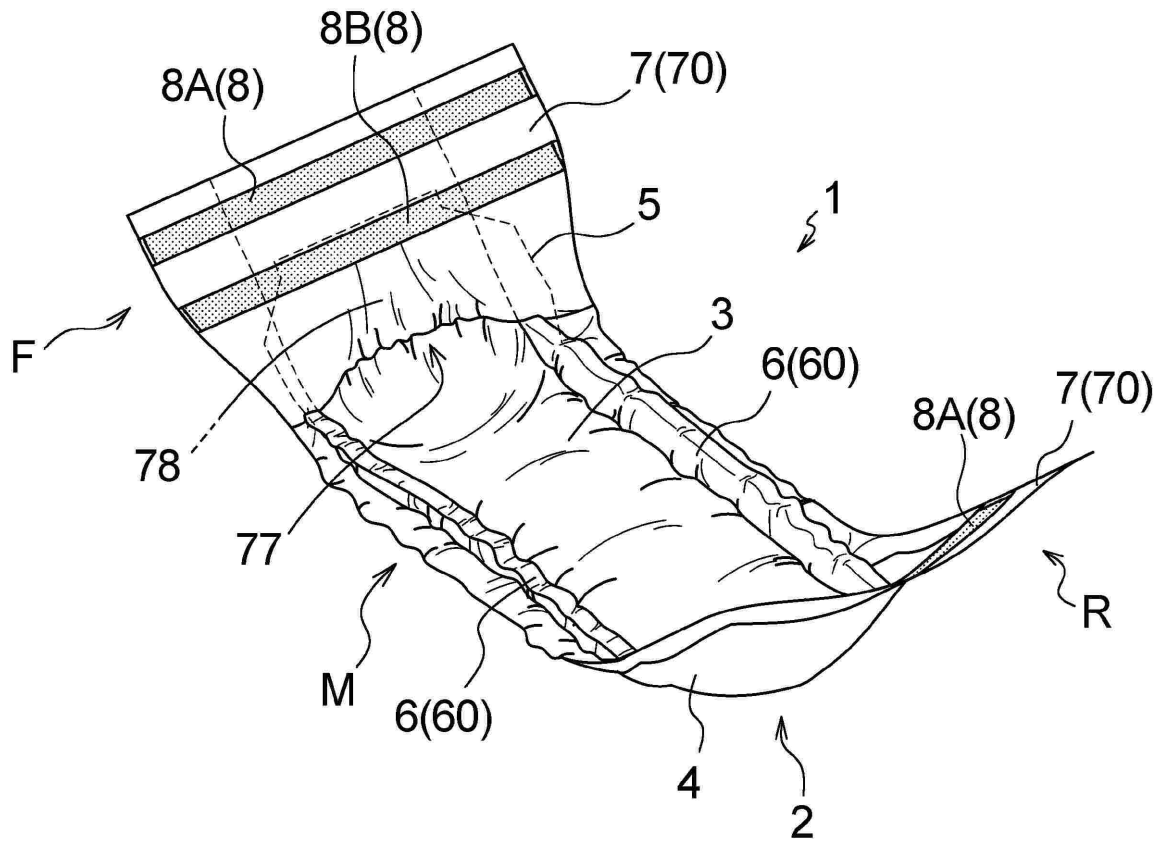
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1】



【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

10

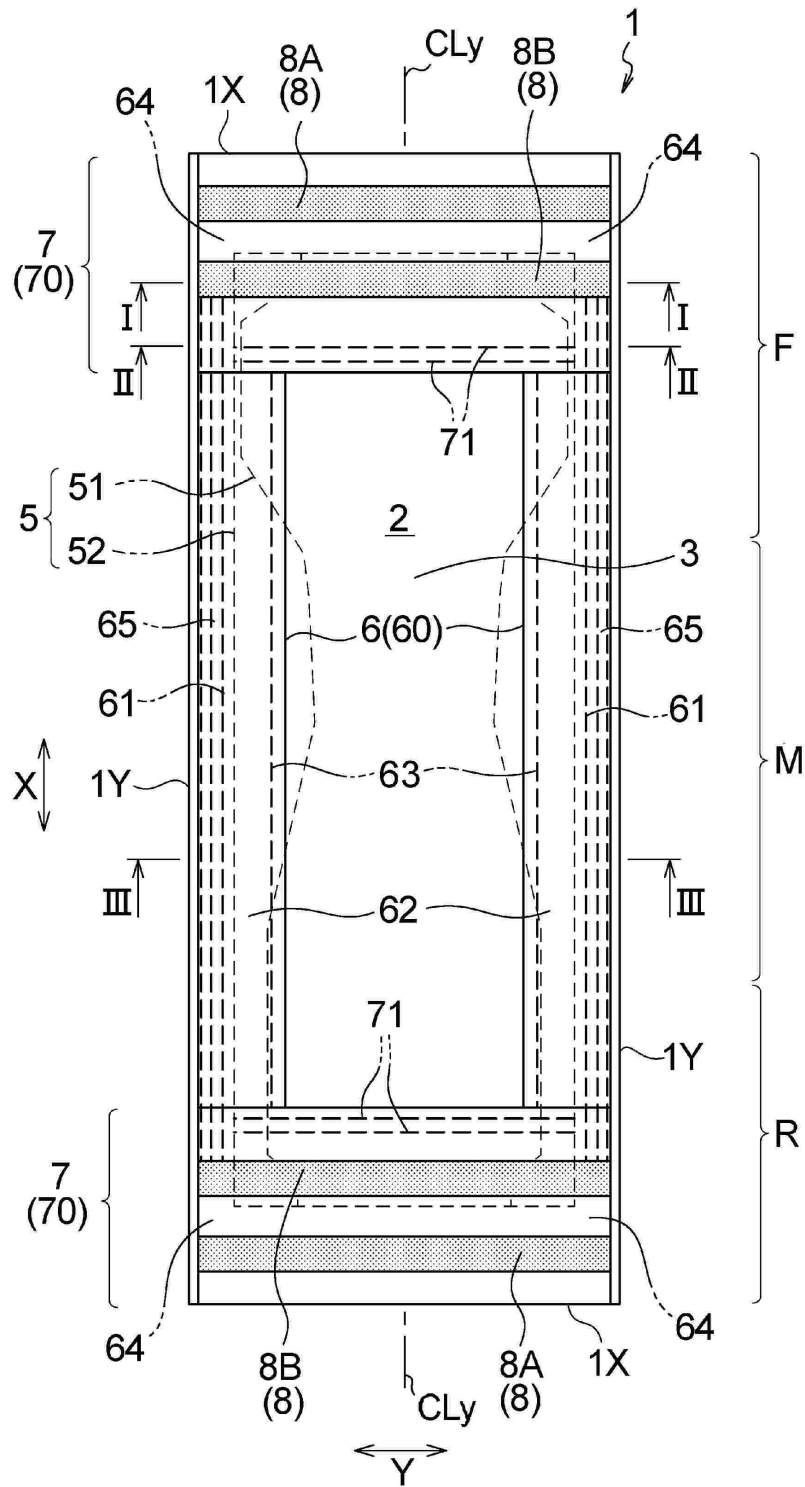
20

30

40

50

【図 2】



【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 3

【補正方法】変更

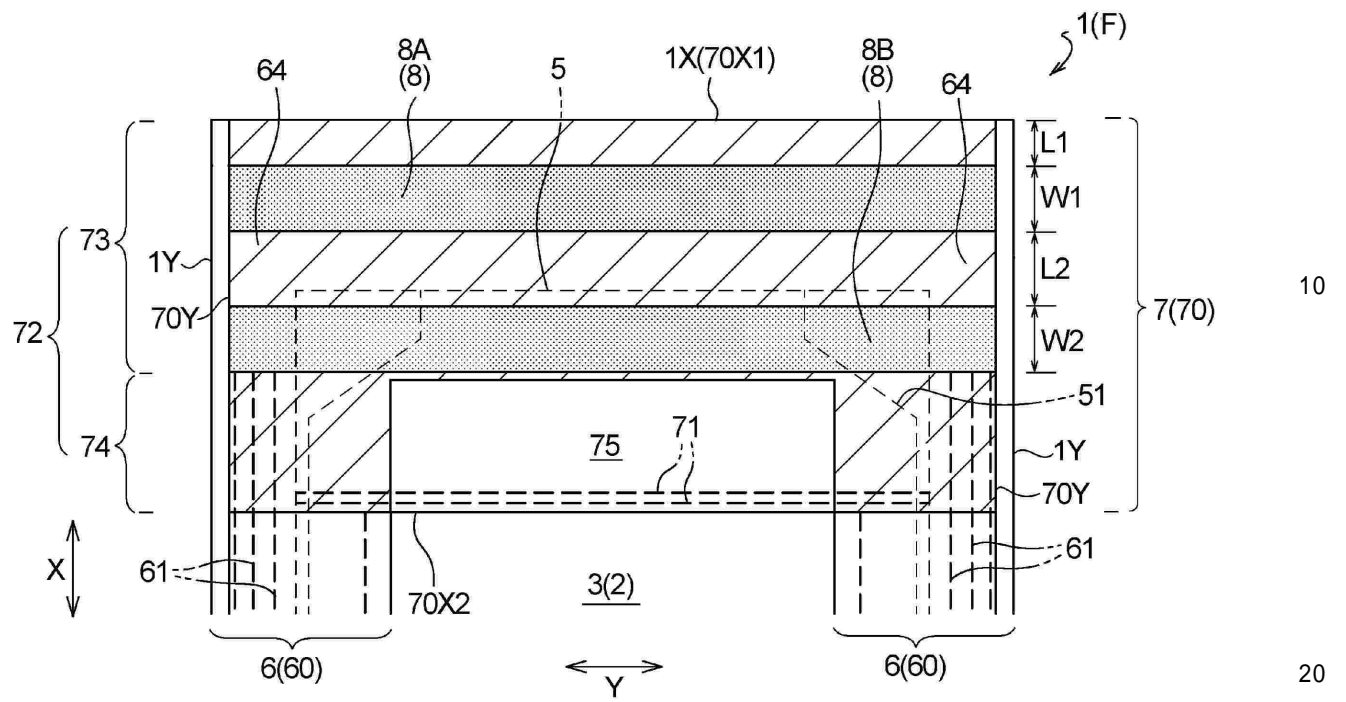
【補正の内容】

10



50

【 図 4 】



30

40

50